

富士見市の「風景」
を変えるのはあなた！



富士見市 33rd 地域・自治 シンポジウム

2月23日(土)

13:00 ~ 16:00

(12:30 開場)

水谷公民館多目的ホール

参加費無料・要申し込み

※保育をご希望の方は
2月15日までにご連絡ください。



第1部 パネルディスカッション

「自ら動く市民が街の風景を変える」

第2部 ラウンドテーブル ディスカッション

〔テーブルに分かれてパネリストを
囲んでディスカッション〕

問い合わせ・申し込み

水谷公民館 049-251-1129



パネリスト
鈴木 美央
O+Architecture 主宰



パネリスト
荒木 牧人
株式会社 80% 代表取締役・maao 代表



パネリスト
佐藤 真実
シカテー豊マーケット事務局長



コーディネーター
関根 健一
富士見市公民館運営審議会委員

「富士見市って、ららぽーとがあるだけで何にもないよね」

ある時、娘がぼそっとこぼした言葉が、私の心に深く突き刺さりました。

それと同時に、富士見市に生まれ育った私も、思春期の頃は「富士見市は畑ばかりで何もない」と思っていたことを思い出しました。でも、ふと気づけば周囲から「関根さんって“富士見市愛”が半端ないですね？」なんて言われるほど、この街が好きになっていました。

私の中で何が変わったのでしょうか？

確かに富士見市は、大型商業施設ができたり、人口が増えたりはしました。

でも、よくよく考えてみると、街がどう変わったのかではなく、私自身が、この街を彩る「人」が好きなことに気がついたんだと思います。

そして、いつか子どもたちが、この街の本当の魅力に気づく時に、もっともっと魅力的な街になっている為に、今できることはなんだろう？・・・と考えて行動をはじめました。

それは行政のまちづくりに関する会議に出ることだったり、富士見市をよくしようと行動する方と語り合うことだったり。「まちづくり」と一言に言っても、手法は様々で、意識はあってもなかなか一歩を踏み出すことが難しい上に、「まちづくりは行政が行うもの」と思い込んでいる市民が多いのも事実です。

一方で、近隣の地域に目を向けてみると、行政の手を借りず、実験的に自ら行動し、そこに込めた「想い」が波及して、街の風景を変えている人（プレイヤー）がたくさんいます。

そこで、それらの地域のプレイヤーをお招きして、

自ら行動するに至った経緯や、そこに立ちはだかった問題や、その解決法をお話いただき、富士見市の風景を変えるプレイヤーが生まれる土壌づくりに役立てていけたらと思います。

富士見市公民館運営審議会委員 関根 健一

プロフィール

あらかき まさと
荒木 牧人 株式会社 80% 代表取締役・maao 代表



施工会社、設計事務所勤務を経て、2013年荒木牧人建築設計事務所(現:maao)設立。
39歳で地域の自治会長に就任。
自治会活動の経験を中心に第3回リノベーションアイデアコンペに応募、優秀作品賞を受賞。
その後、リノベーションスクール・プロフェッショナルコースでの学びを終え、地元で実践開始。
2016年株式会社80%(エイティーパーセント)を設立。
2017年6月 第1号案件「すずのや」「glin coffee 大工町店」
2018年2月 第2号案件「Coworking space ダイクマチ」をDIY中心に施工し、運営開始。
現在も様々なエリア・リノベーションを展開中。

すずき みお
鈴木 美央 O+Architecture 主宰



志木市館在住。早稲田大学理工学部建築学科卒業。
卒業後渡英、英国を拠点とする設計事務所 Foreign Office Architects ltd にて2006年より2011年まで勤務。
2011年に帰国後、慶應義塾大学理工学研究科勤務、文部科学省指定プロジェクト研究員などを歴任。
2016年よりO+Architectureを主宰し、建築意匠設計、公共施設の広場利用計画の策定、自治体のアドバイザー、マーケット企画・運営と建築に関わる業務を多岐に行う。現在は研究と実践を両輪とし、
2016年Yanasegawa inkを設立。同団体が主催し、志木市館近隣公園で開催している「Yanasegawa Market」(柳瀬川マーケット)は、2018年までに7回を数え、街の賑わいの場として定着しつつある。
2017年博士号(工学)取得。二児の母でもあり、親と子の居場所としてのまちの在り方も探求中。
著書に「マーケットでまちを変える～人が集まる公共空間のつくり方～」(学芸出版社)。

さとう まなみ いちじょう
佐藤 真実 シカテ一畳マーケット事務局長



さいたま市南区鹿手袋を中心に、広告グラフィックデザインを仕事にしながら、まちづくりや場づくり・地域イベントなどを企画するシカ(仕掛)け人。
東日本大震災をきっかけに、それまで全く意識をしてこなかった自分と地域との関係性に興味を持ち、地域の中での人とのつながりや、自分の居場所づくりを開始。
町の集会所と珈琲のチカラを活用した地域サロン「鹿手袋シカテカフェ」
住宅街の巨大倉庫を活用したフリマ「シカテ一畳マーケット」
自宅を一部開放して交流拠点をつくる住みびらきの家「さとうさんち」などを企画運営。
自分の思い描くコミュニティを創造する「コミュニティアーティスト」(世界でまだ1人だけ!)として活動中。

せきね けんいち
関根 健一 富士見市公民館運営審議会委員・コウミンカンカフェ主宰



富士見市水子生まれ・在住。
富士見市消防団、PTA会長、市中期基本計画総合計画審議会委員、市ひと・まち・しごと創生会議委員などを歴任。
障害のある長女の子育てを通して、障害者福祉に関わりながら、誰もが暮らしやすいまちづくりに興味を抱く。
「公共と民間の境界をゆるやかにつなぐ」をコンセプトに、公民館をコーヒーの香りで満たす「コウミンカンカフェ」や、自宅のガレージを地域に開放する「ゆるやかな境界プロジェクト」を展開している。